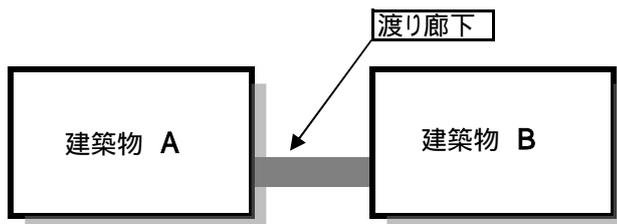


渡り廊下で接続された 建築物で
それぞれを 別の防火対象物とする場合の要件

NBS119

種別	要件			
廊下の用途	通行又は運搬の用途のみに使用されるもので可燃物の存置等がないこと			
廊下の幅員	接続する建築物の主要構造部の構造が木造の場合は3m未満、木造以外の場合は6m未満			
接続する建築物相互間の距離	建築物相互間の距離が1階の場合は6m超、2階以上の場合は10m超			
	上記の数値未満の場合	廊下の構造等	構造	1. 耐火構造 ¹ 又は防火構造であること 2. 耐火構造又は防火構造のへいが設けてあること 3. 閉鎖式スプリンクラー消火設備又はドレンチャー設備が設けてあること
			開口部	面積の合計が4㎡以下であること ¹ 特定防火設備又は防火設備であること
	廊下の構造等	開放式以外の場合	構造	構造耐力上主要な部分 1. 鉄骨造 (右記1.2.3.いずれか) 2. 鉄筋コンクリート造 他の部分(不燃材料、3. 鉄骨、鉄筋コンクリート造
			接続部の出入り口	出入り口の大きさ4㎡以内 出入り口の構造 防火戸で、随時開く事ができ、かつ自動閉鎖装置付のもの又は煙感知器連動で閉鎖するもの
排煙設備(右記1.2.3.のいずれか)			1. 自然排煙開口部 2. 機械排煙設備 3. スプリンクラー設備又はドレンチャー設備	
		吹抜け等の開放式であること		



以下の条件の場合 別棟 扱いとなります

- 渡廊下の用途 : 通行及び運搬
- 渡廊下の幅員 : 6m未満
- 渡廊下の長さ : 1階 6mを超える
2階以上の階 10mを超える

この場合 A B は別棟扱いとなります。その場合渡り廊下の面積は A B それぞれに按分されます。



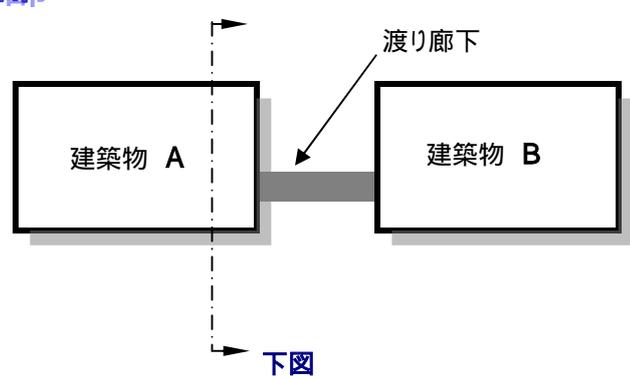
西日本防災システム
NISHINIHON BOHSAI SYSTEM Co., Ltd
<http://www.nbs119.co.jp/>



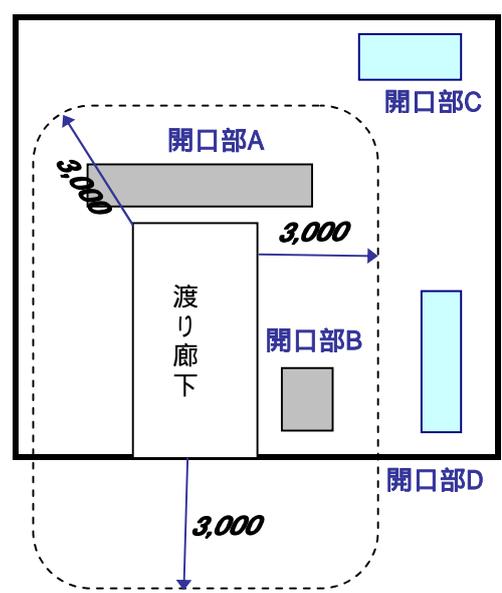
弊社Top Pageへ

渡り廊下で接続された防火対象物 について - 西日本防災システム

開口部 について



1 一の開口部ではなく開口部の面積合計 A棟B棟それぞれの開口部面積合計で、この開口部規制が適用されるのは、渡り廊下接続部から3m以内の部分です。 下図参照



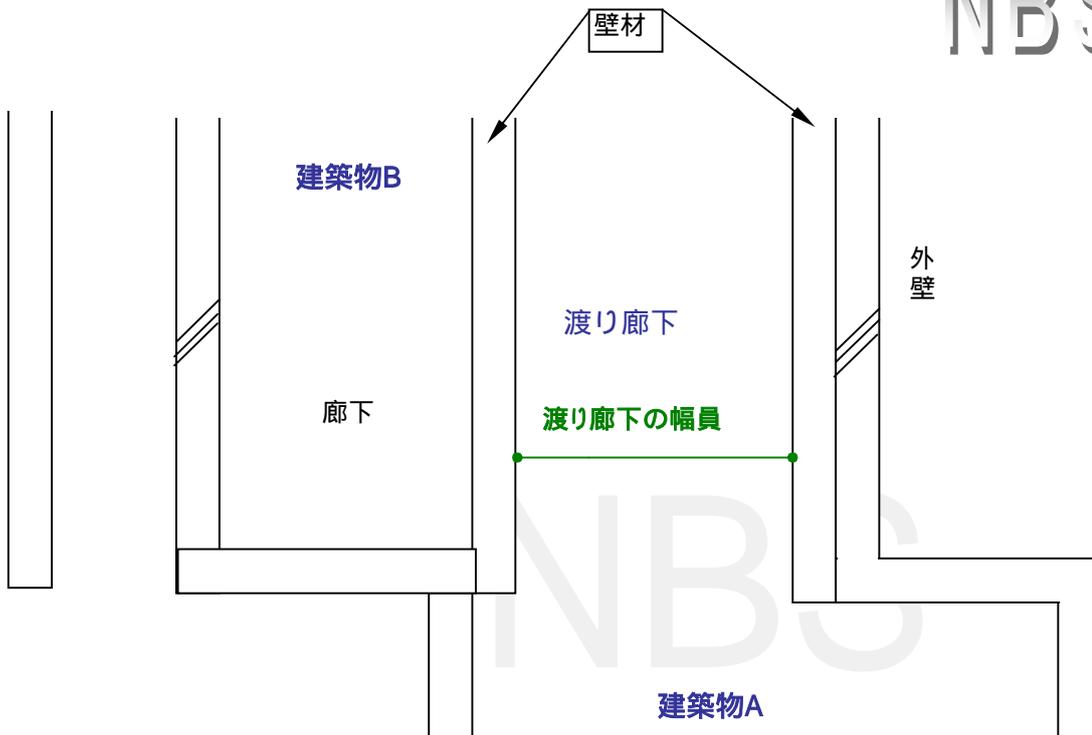
建築物 B 建築物 A
 接続された建築物A,B双方の該当する開口部を合算します
 参考図の場合 開口部A Bの面積は合算され、開口部C Dは合計されません。

- 合算される開口部
- 合算されない開口部



渡り廊下の幅員 について

NBS119

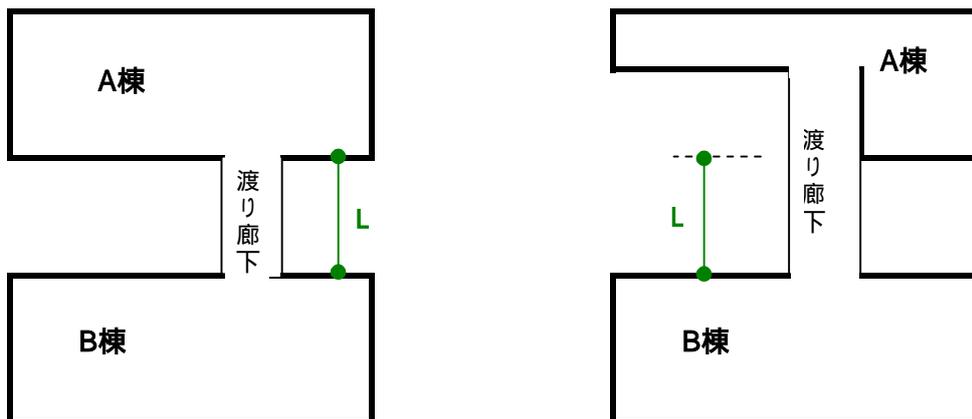


渡り廊下の有効幅員は内壁間の距離とします

建築物相互の距離 について

: L

Q1



西日本防災システム
NISHINOHON BOHSAI SYSTEM Co., Ltd

<http://www.nbs119.co.jp/>



弊社Top Pageへ 

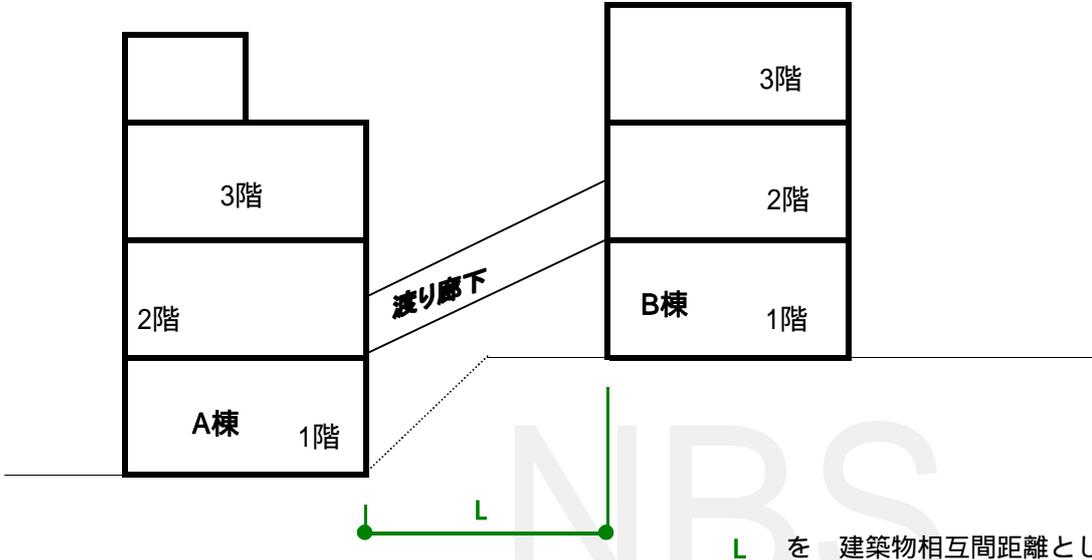
建築物相互の距離

について

: L

Q2

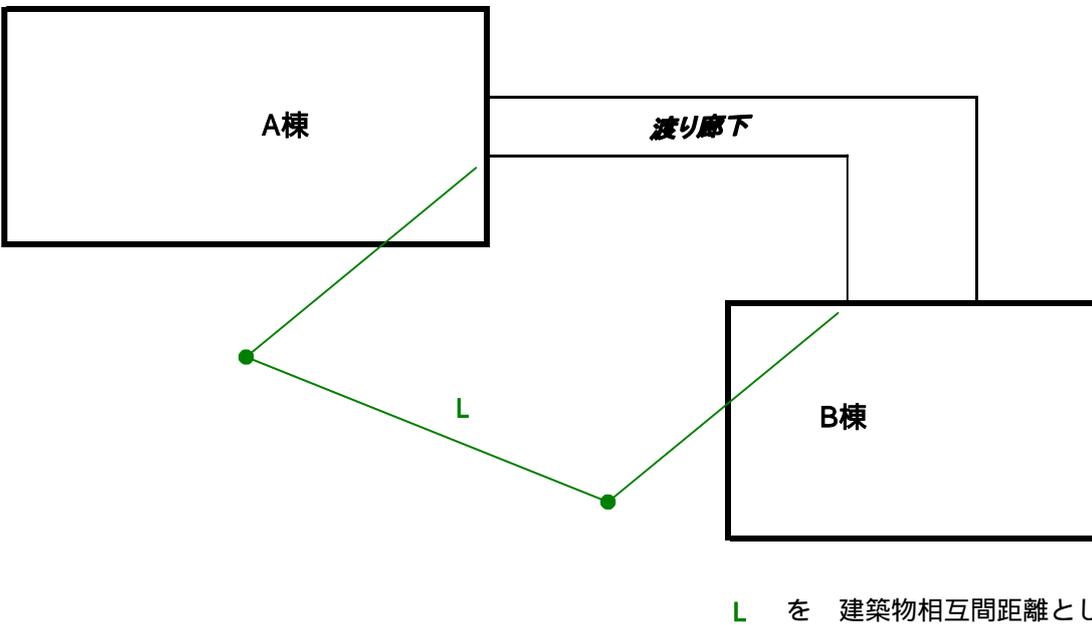
NBS119



について

: L

Q3



西日本防災システム
NISHINIHON BOHSAI SYSTEM Co., Ltd

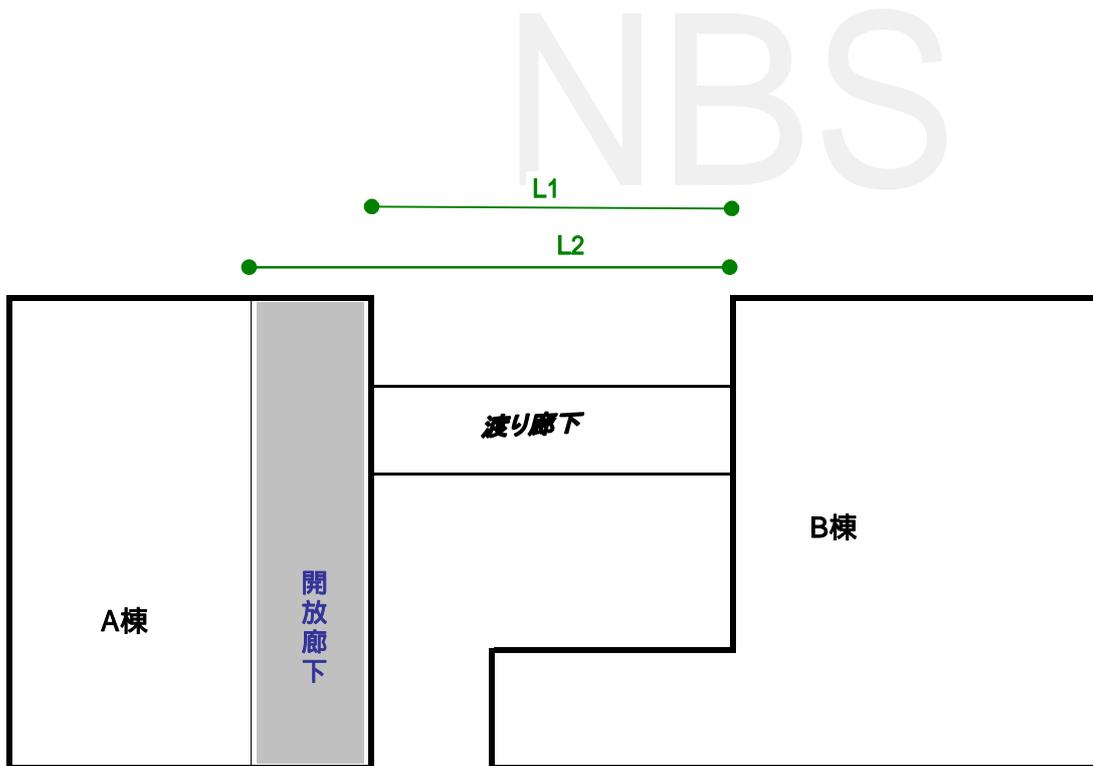
<http://www.nbs119.co.jp/>



弊社Top Pageへ ➡

NBS119

建築物相互の距離 について : L 04



A棟の  部分が開放廊下の場合、

L2 を建築物相互間距離とすることができます

